

「難しさへの信仰」の問題点

一橋大学国際教育交流センター教授 庵 功雄

isaoiori@courante.plala.or.jp

<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/>

「やさしい日本語」という工夫

- 外国人に情報提供するための工夫としての「やさしい日本語」(阪神淡路大震災時の例)
- (1) 容器をご持参の上、中央公園にご参集
• ください。 (「普通の日本語」)
- (2) 入(い)れるものを持(も)って、中央公園(ちゅうおうこうえん)に来(き)てください。
• (「やさしい日本語」)
- 「やさしい日本語」全体については、庵(2016)、庵ほか編(2019)などを参照

「やさしい日本語」への批判

- 震災の時は確かにそうなんですが、他のことはね～。お年寄りや子供にと言われると、「紅葉」という言葉を覚えさせたいのに、全部こんな風に説明すると日本人全体がちょっとバカになったような気がします（スタジオ笑）。
- やっぱ難しい言葉もやっぱり大事だから。
- （立川志らく TBSテレビ「ひるおび！」でのコメント。2019.6.8）
- →難しさへの信仰（？）

難しさへの信仰

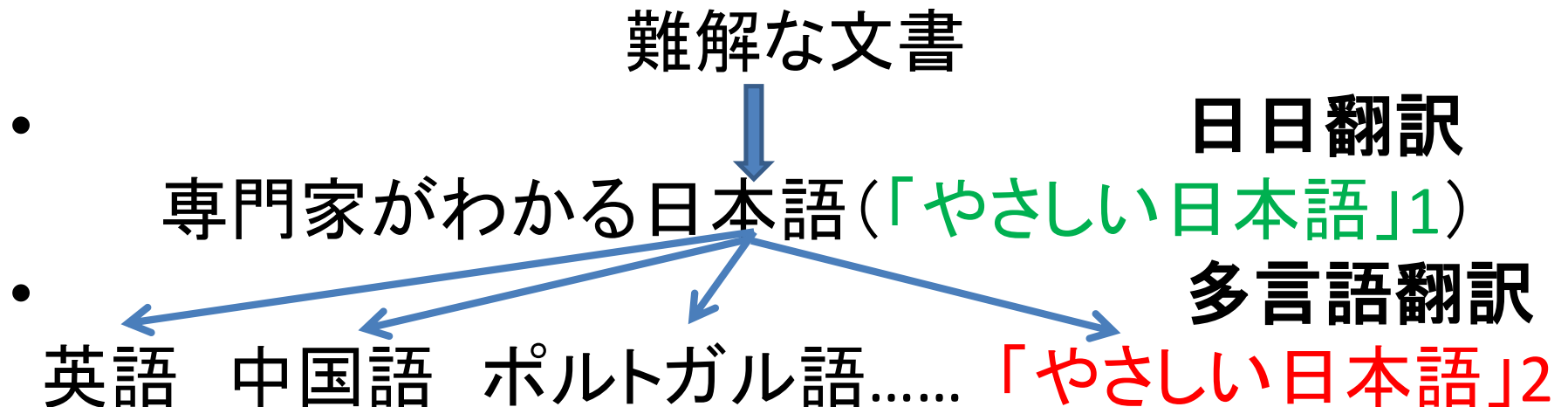
- 公的文書がやさしくならない理由の1つに、発信側だけでなく、受信側にも、こうした「難しさへの信仰」と呼ぶべき心情があるのでは？
(cf. 岩田2016)
- 同様の心情は、医療用語や法廷用語にも見られる。

「難しさへの信仰」の「罪」

- 医療用語の場合、十分なインフォームド・コンセントが行われず、患者が自分自身の病状を正確に把握することができない(cf. 羽富2018)
- 法廷用語の場合、正確な翻訳が難しいため、外国人が自分自身の訴追内容について把握できない
- →「専門家」に求められるリテラシー
- →専門家に語ることばと異なる語り方で、非専門家に同じ内容を伝える

2つの「やさしい日本語」

- 「やさしい日本語」を2つに分けて考える必要



*「やさしい日本語」1: 初級修了レベルの外国人が読めなくてもよい(上級者なら読める)

「やさしい日本語」2: 初級修了レベルの外国人が読める

ビジネス文書における「難しさへの信仰」

- ビジネス文書にもわかりにくさが存在する
- その背景に「難しさへの信仰」があるのでは？
- 儀礼的な定型表現
- 語義が不明確な語（カタカナ語、漢語）の多用
- 「簡単明瞭に」を尊ばない風土
-

ビジネス文書における「罪」

- わかりにくい文書が排除されず、ビジネスの効率化を妨げる
- → **本シンポジウムの成果**
- そうした「難しさ」の享受を外国人に求める
- → 留学生（外国人）の採用時のハードルを不必要に高める
- → 日本のビジネス界は有能な人材を取り逃がしている（cf. TKC2019）

まとめ

- 「やさしい日本語」への批判の根底に、「難しさへの信仰」の存在がある
- 「難しさへの信仰」は、専門家が語る文書全般に見られる
- 「難しさへの信仰」には、非専門家が必要な情報を得ることを妨げるという「罪」がある
- 本シンポジウムで指摘されたビジネス文書の問題点は「難しさへの信仰」の「罪」の例である
- ビジネス界における「罪」の結果、日本は現在、有能な外国人人材の獲得に失敗している

- 引用文献
- 庵功雄(2016)『やさしい日本語』岩波新書
- 庵功雄・岩田一成・佐藤琢三・柳田直美編(2019)『〈やさしい日本語〉と多文化共生』ココ出版
- 岩田一成(2016)『読み手に伝わる公用文』大修館書店
- 羽富文子(2018)「江戸川区西葛西におけるインド人母親の生活と思考ー日本人母親との雑談からみる話題選択とライフストーリーー」2017年度一橋大学言語社会研究科修士論文
- TKC(2019)「共通言語として注目浴びる「やさしい日本語」」『戦略経営者』2019年3月号
<http://www12.plala.or.jp/isaoiori/senryakutekikeieisya.pdf>